

緑の相談所だより

{10.11月号 ~1992.9.30 ~ 発行・編集 旭川市緑の相談所}

講習会

庭木類の越冬準備

- 内容…◎庭の整理
◎越冬前の病虫害の防除

■日時…10月11日(日)
午後1~3時

■講師…旭川市緑の相談所相談員
小島博昭
定員→60名

冬に向けての 鉢花・観葉植物の 育て方

■日時…10月25日(日)午後1~3時

■講師…旭川市緑の相談所相談員
村田正一
定員→60名

庭木類の冬囲い

- 内容…◎過度な冬囲いをさける
ために
◎病虫害の越冬個体の再点検

■日時…11月8日(日)
午後1~3時

■講師…旭川市緑の相談所相談員
小島博昭
定員→60名

初心者向け 洋ラン(カトレア、コチヨウラン)等の 栽培管理と園芸の基礎知識について

■日時…11月29日(日)午後1~3時

■講師…旭川農業高等学校教諭
萩原和夫

- 内容…冬に向けてのカトレア、コチヨウランの室内管理や、園芸の基本的な知識、用土、肥料などについて学習を深めましょう

定員→50名

いずれも 参加料=無料

お申込み・お問い合わせ=旭川市緑の相談所(神楽岡公園内) ☎65-5553



季節の花ことば

われもこう (吾木香, 吾赤紅)・・・愛慕 変化

桑の実にも似た暗紫色の小花は、集合してツクシ状の穂をつけます。

この花は単被花といって花弁がなく、花卉に見えるのはがくなのです。

根は「地榆」とよび止血、去痰に用いられます。

Fruits & Nuts

ミニものしり手帳



Q. 世界で最も多く生産されている果物ベスト5

A. ブドウ, オレンジ, バナナ, リンゴ, ナシ

Q. 世界最大の木の实

A. オオミヤシ (種子だけで18キロもある)

世界のカゼの直し方

アメリカ



熱い風呂に入り、出たあと
熱い紅茶にウィスキー、ハチ
ミツを混ぜて飲む。アルコールの
だめな人はレモン汁をたらす

インド



ショウガをすりおろした
ものを紅茶に入れて飲む

オーストラリア



熱いミルクにラム酒をおとして
飲む。熱いミルクに卵の黄身を入れ
かきまぜたものを飲む

フランス



赤ワインをお燗して飲む

オランダ



熱くしたブランデーに
卵の黄身を入れてかき
まぜ飲む

中国



水と酢を一對一ぐらいの割合で混ぜたものを
鍋に入れて火にかける。鍋から立ちのぼる湯
気で部屋を暖める一種の吸入法。

冬の使者「ユキムシ」 旭川市緑の相談所相談員 村田 正一

10月も中旬を過ぎると「ユキムシ」が舞い、雪の季節が近づいたなと思います。

ユキムシとっているのはアブラムシのなかのワタアブラムシ類で、産卵場所を求めている旅姿です。ワタアブラムシ類はからだがワタのような毛で覆われている仲間です。

春、卵からかえったのは全部羽のない雌で、成虫になると雌ばかりの幼虫を生みます。夏の間5～6回雌だけで繁殖を続けますが、冬が近づくころ羽のはえた雌と雄が生まれ卵を生むために旅をするのです。これをユキムシとよんでいます。

アブラムシの仲間は植物の葉や根について液を吸い、植物を弱らせたり時には病気を移したりする害虫です。

室内に入れた鉢ものの注意

寒さに弱いものから順に入室しますが、室内に入ると環境が急に変わるためその影響でものによっては葉が黄色くなったり落したりすることがあります。そのうち慣れてきますが、日に1～2回霧吹きで葉や幹に霧水をかけてやるといいでしょう。

日光の好きなものはガラス越しの日光にできるだけ当ててやりましょう。

・害虫に注意

「アブラムシ」や「オンシツコナジラミ」が発生することがあります。オンシツコナジラミは1～2ミリの真っ白な羽のある虫です。ハイビスカス、ゲンペイボク、ポインセチヤ、ホクシヤなどに好んで着きます。これは20年くらい前に外国から入ってきた害虫で、樹液を吸って害を与えます。

オンシツコナジラミにはアクテリックかカルホス乳剤を1週間おきに3回くらいかけてやります。もっと簡単な方法を教えます。蠅や蚊を退治する缶入りのスプレーを50センチくらい離れた所からふわっとかけてやると死にます。大き目のビニール袋をスッポリとかぶせてかけるともっと効果があります。卵がまたかえりますから1週間おきに3回くらい繰り返してください。

植物と温度

種類によっては高い温度を好まないものがあります。アザレヤ、サツキ、ツバキ、ウメクジャクサボテンなどは5度～10度くらいの低温に十分合わせておくことが大事です。

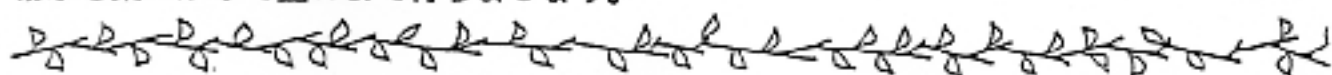
低温に合うことによって花芽は休眠から覚めたりクジャクサボテンのように花芽が出来たりするものです。特にツバキ、ウメは12月始めまで寒い所に置いてください。0度になっても大丈夫です。クジャクサボテンは水やりを減らしてください。12月から2月いっぱい水をやらずに5度前後の所に置くと花芽ができます。

熱帯性の観葉植物や草花は寒さに弱いので温かくしてやります。なるべく10度以下にしないほうがいいでしょう。

水やり

最も気温の下がる朝方の最低気温によって水のやり方を変えます。最低気温が15度以上保てるお宅では夏に近い水やりでもいいですが、15度以下になる家では葉がしおれかかるようになってから与えます。乾かないうちに水をやると根腐れします。特に幸福の木は鉢土がいつもじめじめと湿っていると根腐れしますから気をつけてください。

水やりは必ず午前中に鉢底から流れ出るくらいやります。夕方葉が少々しおれていても霧水を葉にかけて翌日まで待ちましょう。



皆さん、庭の整理は終わりましたか。

今年の冬は、エルニーニョ現象をうけることなく寒い従来の旭川の冬にもどりそうな気配です。

少しでも寒さの害から庭木類を守るためにも病菌、虫の越冬個体を残さないことが大切です。そのためにも庭の整理を終った方、これからの方も含めて次の事柄に注意を払いながら庭の整理をするようにして下さい。

◎病菌

夏の生育期間中に病菌におかされたものがあつた場合には十分に駆除されているかどうかを再点検して下さい。無菌状態でない限り、いろいろな病菌がたえず存在すると考え注意を怠らないことが大切です。越冬個体として残しますと、来春温度が上がりだすと同時に繁殖がはじまり、いろいろな被害が目につきだし、被害にあつた庭木類は弱っていきます。

庭木類をこのような状態にすることは翌年、翌々年くらいまでの生育に影響しますので、少しでも“病菌の越冬個体”を残さないよう庭の整理をし、薬剤による防除もおこなうことが大切です。



ボクは
6月に出るぞ



◎虫

その年、その年の自然環境（特に気象条件）によって多発する種類に変化はありますが、コガネムシのように3年目で成虫になり、飛び出して来た成虫を見てはじめてその被害の大きさに気がつくことが多々ありますので、日頃の観察を十分におこなうと共に“病菌”と同様、越冬個体を残さないよう庭の整理をおこない虫の越冬個体のついてるものは焼却あるいは薬剤による防除を徹底しておこなうことが大切です。

◎肥料

秋の肥料やりはカリ肥料が主体です。

旭川のように冬の寒さのきびしいところでは、良い状態で休眠期入りをさせるためには“葉の養分”より“根の養分”が大切です。

耐寒性をつける意味でもカリ分肥料は重要な役割をはたすことを知っておくことが大切です。



チッソ分が多くなると寒さの害にあうことがあります